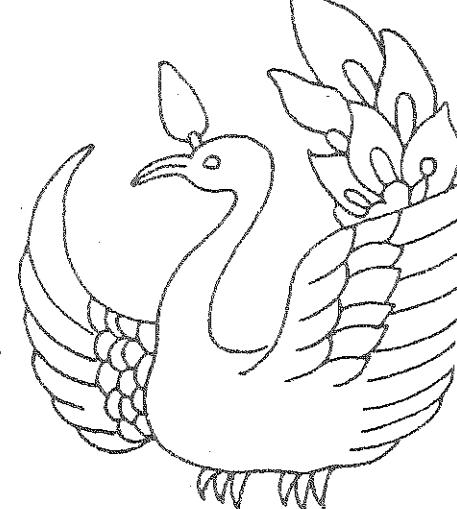


年頭の辞

門主

大谷光真



光寿無量、新しい年の初めにあたり、ご挨拶申し上げます。

お念佛とともに、一時ひとときを大切に過ごさせていただきましょう。

私たちの宗門では、五年後に迎える親鸞聖人七百五十回大遠忌法要を中心とした

「宗門長期振興計画」が立てられました。

親鸞聖人のみ教えが広く現代の人々に伝わり、人生の灯火となるためには、私たちが創意工夫を重ね、熱意を持って取り組まなければなりません。その第一歩として私がどのような念佛者になろうとするのか、これから、どのように宗門を築いていくのかを描いてみようと考えました。

先ず、思い浮かべましたことは、何時でもどこでも称名念佛が出る身になることです。ご本尊の前でのお念佛、食事の時のお念佛。それぞれ大切ですが、形式を離れたお念佛も、しみじみと阿弥陀如来さまが思い起こされ、有り難いものです。それは、その時々の出来事をお念佛に照らして受け止めることにもなり、喜びや元気がわいてくることになります。

淨土真宗の歴史を見ますと、多くの場合、専門家が教えを伝える前に、お念佛を喜ぶご門徒の移動移住がありました。今日の人口移動を考えますと、世界各地、全国各地に門信徒の方々がいらっしゃると想像いたします。近くにお寺があるところも、無いところも、それに、み教えを聞き語り合う場があり、朋があることが理想です。そのためには、繋がりを保つ手立てを工夫しなければなりません。

さまでまな夢を描きながら、この一年を過ごしたいと思います。

(親鸞さまの大遠忌) ご本山でも勝林寺でも法要をお勤めします。親鸞さまの教えってどんなこと。親鸞さまってどんな方だな。

来月から少しずつ『勝林寺寺報』で学んでいきましょう)

人生のブレークです

法泉寺坊守 稲葉 邦子

一日

二日 本山参詣

三日

四日 節分

五日

六日 立春 中嶋英樹氏宅法事

福成寺七日参り

十一日

十二日 西山保夫氏宅忌明法事

朗読ボランティアあすなろ

仏婦評議会

21日 検診

26日 みのりを聞く会

27日 あすなろ

あるお宅の縁側で、お庭のさくらの美を眺めていたときのことでした。遠い昔に母方の祖母から、こんな話を聞かせてもらつたことを思い出しました。鬼子母神という神様は、自分の子供を育てるお乳を出すために、人間の子供を食つていたそうです。

そんな有り様をご覧になつたお釈迦様は、鬼子母神のことを哀れにお悲しみになつて、そつと彼女の子供を隠したそうです。彼の女は目から血の涙を流して、わが子を探し求めたそうです。

そこでお釈迦様は鬼子母神に「わが子が居なくなつたら、そんなに悲しいだめう。お前が食つてしまつた子の母親は、どんなにつらかただろう」とお諭しになつたそうです。

そのときははじめて、鬼子母神は自分の姿に気がつき、愕然としてもう一度と子供をとつて食べたりしないと思い決めました。けれども鬼子母神とて食べなければお乳を出すことは出来ない。子育てはできないので、お釈迦様は彼女にざくろの実をお与えになつたそうです。

仏婦（勝林寺仏教婦人会）

評議員会

私は、思わず庭のザクロに実に合掌したことがあります。このわたしは鬼子母神と、どう違うのでしょうか。全く私は鬼子母神です

1月10日（土）午後2時開会

仏壯（勝林寺仏教壯年会）総会

親鸞聖人の大遠忌へ向けての新たなスタートの年を力強く踏み出したいと思います。会員の皆様の更なるご協力をお願ひします。総会へのご出席、特にお願ひ致します。

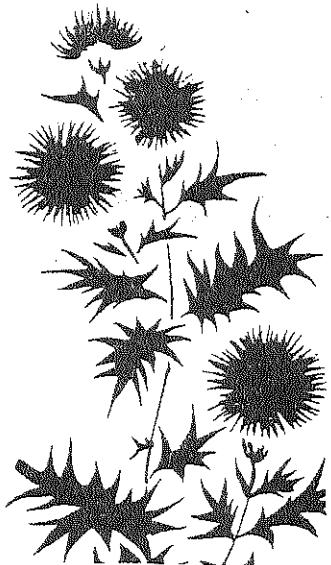
1月11日（日）午前10時開会

仏婦（勝林寺仏教婦人会）

評議員会

仏婦の「総会」は、例年七月九日（日）となつてますが、年度当初に会の出発をしなければなりませんので、先駆けて評議員会を開催致します。

新年度の評議員さま、別にご案内致しますが、必ずご出席協議くださいますようお願い申します。



いのち永らえて

「そんなにしてまで長生きしたいんか」
「なんのために命永らえるんや」

私が、何の解答も出来ません。
確かに煙草もやめました。毎日ウオーキングにも勧めています。毎日血圧計り、月に一度は病院で定期検診します。

病院の先生から「模範生」やと褒められて、よいに精出して健康管理に務めています。

なんでや。何のためなんや。

いつかは死ぬ。でも死ぬときは安樂に……と思わぬではないが、そんなことなんの保障もない。狂い死にしたて痴呆で死んでもそれは仕方ないこと。死に様なんてどうでもいい。願つてみてもどうにかなるものでもない。

今、いろいろな人や物との出会い。これはまさに千載一遇の有り難い出会い。これはこれは私の宝物。よきにつけ悪しきにつけ、この今の一瞬に出会っているこの出会いは、わたしは大事に大事にしたいと思う。

ただそれだけ。

人に教えたり、人を導くなんて出来るはずもない私。

数えきれない力に育てられ願われて生きてこれた私。

この身にいっぱいの「ご縁」を、折角年が寄つたのだから、噛み締め直して、ご恩のなかにあるわたしのいのちを有り難く有り難く生きたいのです。一日でも一時間でも……。

よく院家さんは「いつもどこでも、だれでもの、南無阿弥陀仏」とおっしゃるが、そして、今月の勝林寺さまの掲示板に慈光のなかに花と生きたいとあるのはこんなことなど、お念仏が出て下さいました。

教えていただいた親鸞様のうた

南無阿弥陀部を称えれば
この世の利益きわもなし
流転輪廻の罪きえて
定業中天のぞこりぬ

どこかで読んだ詩

(親鸞様の詩のいろいろかな)

長生き、若死に問題なし
因果応報 気にしない

今いのちを

ご恩のなかで 歓喜

歓喜

南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏



Kさんが田舎の親戚の家に初めて行ったのは8歳の時だった。
初対面のいとこは同じ年。
「男の子同士で遊んでらっしゃい」と、外に追いやられたが、勉強好きで運動が苦手な都会っ子と、その正反対の二人には、共通の遊びも話題も無かつた。

裏庭には鶏が沢山いた。

そのなかに一羽、ひとなつこいのがいた。

名前をつけて足にリボンを結んだ。

とっさに思いついたお話は「コッコちゃんの大冒険」。

幼いKさんの創作話にいとこが夢中になつてくれたので、翌日もその次の日も二人は裏庭でコッコちゃんと遊びながらお話を続けた。

明日は東京に帰るという晩、大好きな寄せ鍋を囲んで二人は不自然なほどはしゃいだ。

淋しさの予感を吹き飛ばすように。

別れの朝、裏庭へいった。
コッコちゃんはいなかつた。そういえば、あの鍋……。

いとこ一人で泣いた。冒険の途中で死んだコッコちゃんのために。

五十を過ぎた今でも、Kさんは食事の前に必ず手を合わせて「いただきます」と言う。命を落として食卓に並んでくれた生き物たち。あなたの命をいただきます。

「金はらつてんのにいちいちイタダキマスつていう意味わかんねーし」という若者。「食事を始めるただの合図よ」という母親。

「いただきます」の意味を噛みしめよ!。

即席たくあん漬け

これは前の坊守さまから教えてもらいました。当時はご門徒だけではなく郡内にひろく漬けられたものです。

もう一度漬けてみたいとのご要望に応えてご披露します。 仏婦役員



材料

① 大根 十鉢
② 塩 一合、三十五度の焼酎 二合、砂糖 一鉢、

③ 昆布 てんとう など

漬け方

大ナベに②を混ぜ合わせます

それに①の大根をくぐらせます。

それを漬物桶に並べて漬け込みます。

大根のあいだに2〜3㌢に切った昆布・てんとうを挟みます。

適当な重石を置く

二日くらいで水が上がりります。十日もたてば食べられます。

大根が大きすぎれば二つ割りにしておよろしい。

裏庭のコツコちゃん

達

襲

(毎日新聞掲載)



コラムニスト 小林 洋子